

# 海外との「共同学習」による地球的視野の育成 (気仙沼市立面瀬小学校)



## 活動概要

宮城県気仙沼市立面瀬小学校では、米国の小学校と協働し、持続可能な未来の構築のための資質と能力を育成するため、宮城教育大学や国連大学、地域の関係機関など、国内外の機関と連携し、環境、文化、教育などの様々な専門的リソースの支援を得つつ、国際的な環境教育プログラムを開発しました。

## 実施背景

教育改革が継続する中で、社会の変化に対し、子どもたちに豊かな心を育みながら持続可能な社会に貢献するために基本的な資質や能力を育成し、「生きる力」を涵養することの必要性が認識されています。また、「新学習指導要領」(2011年4月より実施)は、学校が「総合的な学習の時間」を質的に充実させること加えて、それぞれの学校においてESDを推進することを求めています。

面瀬小学校は、2002年から日米教育委員会フルブライトメモリアル基金(JFMF)のマスター・ティーチャー・プログラム(MTP)に参加し、アメリカの小学校と共同で国際環境教育プログラムを実践してきました。このMTPにより、日(気仙沼)-米の自然環境(水辺)を生かし、環境教育を基軸としたESDのプログラムの開発と実践を図っています。

## 目的

- (1) 日米両地域の環境の共通性である水辺環境をテーマに、観察や調査、採集、飼育などの体験を通して、子ども一人一人の自然環境への感性や科学的な探求心をはぐくみます。
- (2) ICTを活用して、米国の小学校と学習交流を展開し、互いの環境についての相互理解を促進します。
- (3) (1),(2)の価値観を通して、地域及び地球環境に対する認識を深めながら、地球的視野を育み、積極的な環境行動への基礎を養います。

## 実施体制

宮城教育大学などの協力を得つつ、生活科・総合的な学習の時間を基軸とした年間プログラムとして実施



# 内容及び特徴

## (1) 概要

米国の小学校とのペアプロジェクトは全ての学年で取り入れられています。各学年のプロジェクト開発の際には、生徒の発達段階、環境、開発すべき能力や見通しが考慮されます。専門機関のサポートを得、各学年のレベルに適切な課題を選択し、プログラムの開発、実施が行われました。

気仙沼市立面瀬小学校 自然と祭りプロジェクト 野菜栽培プロジェクト BUGS マッププロジェクト 面瀬サンクチュアリ 海のミュージアム 海辺の環境未来都市	(米国) ウィスコンシン・リンカーン小学校 Halloween & Moon Festival School Lunch & Food systems Muir woods soil & Insect Study Water Study (Creek Project) Pothole Study & Fast Plants Box city- Terrace town 2004
---	--

## (2) 主なプロジェクトの概要

### バグズマッププロジェクト(3年生)

トンボやチョウといった、面瀬川の水辺の昆虫を調査・観察します。その結果をもとにその分布や季節変化などの多様性をサイバースマップに作成してまとめ、米国の小学校と情報交換します。

### 面瀬サンクチュアリプロジェクト(4年生)

面瀬川の水生生物を収集、観察、飼育することで、生物同士の「つながり」に気づき、豊かな水環境を保つために大切な視点を体験的かつ問題解決的に探求します。生徒たちにより、「面瀬ミニ水族館」や「面瀬サンクチュアリ」を制作し、面瀬川の豊かさを実感します。

### 海のミュージアムプロジェクト(5年生)

地域の磯の生物やブナ林の観察を通して海の生き物を育むと森・川・海の生態系の関係を学びます。また、米国の小学校の湿地の淡水生物の生態系との比較も行います。また、「海のミュージアム」を表現することで、人間も含めた海の環境や生態系と人間の営みの関係について学びます。

### 海辺の環境未来都市プロジェクト(6年生)

気仙沼市の森や川、海などの自然と共生した未来の気仙沼市について考えます。6年生で行う水質やエネルギー調査と、5年生まで学んできたことを基に、それぞれのアイデアを出し合って自分たちのイメージする未来都市をデザインします。最終的には、それを、面瀬の未来都市のジオラマという形で表現し、持続可能な社会と自分たちの生き方を見つめます。

## (3) ICTの活用による時間と空間を超えた「学び共有」の実現

面瀬小学校とリンカーン小学校は、オンラインテレビ会議システムでつながっており、月1回のインターネットテレビ会議では、面瀬の子どもたちは英語を、米国の子どもたちは日本語を使い、時間と空間と言葉の壁を越えて学びを共有しています。子どもたちたちはそれぞれの交流の中で、互いの水辺環境の異質性や共通性に気づき、理解を深めるとともに、地域や地球環境を大切にする思いを国を超えて分かち合うなど、地球的視野を養いながら学びと友情の輪を広げています。

### お問い合わせ先

宮城県気仙沼市立面瀬小学校  
住所：〒988 - 0133 宮城県気仙沼市字松崎下赤田 58  
TEL : 0226 - 22 - 7800 FAX : 0226 - 24 - 7215  
MAIL : omo-s14@k-macs.ne.jp

# 国際理解教育を軸にした英語活動の展開 (宮城県気仙沼市立鹿折小学校)



## 活動概要

宮城教育大学の留学生との国際交流活動、JFMF・MTP<sup>1</sup>でのテキサス州カリスバーグ小学校の児童とICTでの国際交流活動を軸とした英語活動の実践を中心に、コミュニケーション能力、異文化理解の能力を育てる国際理解教育を推進しています。

英語活動では「進んでコミュニケーションを図ろうとする児童」の育成を目指しています。「話す内容」と「話す相手」があることにより「使う」という目的意識を持たせるため、英語活動、地域についての学習、環境学習等、様々な題材を含ませながら国際理解教育を展開しています。

注 JFMF・MTP(日本フルブライトメモリアル基金・マスターティーチャープログラム)



熊谷春男 鹿折小学校校長

## 背景・課題

持続発展教育には異文化理解の能力と異文化コミュニケーション能力の育成は欠かすことができません。中央教育審議会でも、社会や経済のグローバル化の進展に伴い、学校教育において小学校を含め外国語教育を充実することが重要な課題のひとつとなっていることが答申されています。また、学習指導要領改訂に伴い外国語活動も新設されています。

気仙沼市では児童が国際理解の視点から外国人に接することはほとんどないので、児童が外国人とコミュニケーションを図りながら異文化に直接ふれ、日本の文化を見つめる機会が必要です。

## 目的・目標

「人間性豊かで自ら学ぶ力をそなえ、国際社会にたくましく生きる児童を育成する」ことを目標に、文化や背景の異なる人々と積極的にかかわり、自分の思いを伝え、相手の気持ちを分かろうとする中で、互いに理解し合おうとする力を育み、国際言語としての英語に親しませていくことを重視しています。体験的な活動を重視した国際理解教育を推進する中で「国際社会にたくましく生きる児童」の育成を目指しています。

## 実施体制

気仙沼市立鹿折小学校が、宮城教育大学国際理解教育研究センターや JFMF、ちゅうでん教育振興財団と言語教育振興財団から支援や助成金を受け、国際交流活動を実施しています。

## 資金

宮城県教育委員会、気仙沼市教育委員会、JFMF、ちゅうでん教育振興財団、言語教育振興財団、宮城教育大学から助成金や講師や留学生の派遣を受けています。

## 活動内容

### 1. 英語活動と人権教育、国際理解教育

6年生では「福祉」について取り上げ、「今、みんなの願い、みんなの幸せ」というテーマで学習を進めました。留学生との交流内容としてキャップハンディ体験を取り上げ、英語活動で学んだ表現を使って、体験したことや感じたことを留学生に伝えます。

また、カリスバーグ小学校の児童と福祉について調べたことを TV 会議で 発表し合い、相違点や共通点を話し合います。



ICT を活用し、カリスバーグ小との TV 会議



伝統芸能の体験



風呂敷の使い方を一緒に学ぶ

## 2. 英語活動と地域についての学習と国際理解教育

3年生は総合的な学習の時間で「地域の宝物を見つけよう」というテーマで学習を進めます。留学生との直接交流では当地区の伝統芸能である浪板虎舞と一緒に体験し、イタリアやオーストラリアの祭について教えてもらいます。

その後、総合的な学習の時間で発見したことを1枚の大きな地図にまとめ、TV会議で英語を使って案内しながら発表します。

## 3. 英語活動と環境教育と国際理解教育

5年生は環境をテーマに学習を進めています。

オーストラリアからの留学生と一緒に水質検査を行い、オーストラリアと日本の環境への取り組みの共通点や相違点を考え、次いで、地球規模の問題について調べる活動に発展させます。また、留学生との直接交流では環境学習のまとめの一つとしてエコバッグや風呂敷の活用などエコ活動への取り組みについて発表し、TV会議で中国やインドネシアの取り組みについて意見を交換し、学習を深めます。

## 4. 英語活動と生活科と国際理解教育

生活科では主に栽培活動と関連させて英語活動を展開しています。育てたサツマイモを使って、一緒に調理をする中で英語表現に親しみます。また、交流しているカリスバーグ小学校と同時期に草花を栽培し、その成長の様子を比べます。

## 交流活動時の児童の感想

宮城教育大学の留学生やJFMF・MTPでの直接交流活動やTV会議での間接交流をもったときの児童の感想です。(感想文は本人が書いた原文のまま、下線を挿入しています。)

### 1. 留学生等との直接交流

おまつりの話をしてもらっている時、どの国の人がどんな料理を食べるのかわかりました。日本の料理にはないすごい料理もありました。わたしは(あの料理を食べてみたい。)と思いました。イタリアではかみさまに食べ物をおそなえするときにあまい食べ物をやったりすると聞いてすごくびっくりしました。あきいっばいまつりのかざりを作る時は、中国のりゅう学生におちばをあげました。(今日、休まないで来てよかったなあ。)と思いました。(2年生)

### 2. 留学生等とTV会議による間接交流

私がこの間のテレビ会議で学んだことは、外国や日本の環境問題への取り組みです。外国の環境問題への取り組みでびっくりしたことは、中国は、レジ袋にお金がかかるということです。私のまわりでは、レジ袋は普通タダでもらっているの、中国のようにレジ袋にお金がかかるようにすれば、マイバックを使う人が増え、環境にやさしい国になると思います。逆に日本の環境問題への取り組みでよいと思ったことは、ふるしきの利用です。私は、ふるしきの発表をしてみて、今まで日本人だけ知らなかったふるしきのことがよくわかるようになりました。ふるしきは、何回も利用できるの環境にやさしいということがよくわかりました。外国の環境問題への取り組みもすばらしいと思うけれど、日本のよさも外国の人たちに見習って欲しいと思います。この間のテレビ会議では、フェビさんたちに日本の環境問題への取り組みをちゃんと伝えられてよかったです。(5年生)

### 3. MTPによるカリスバーグ小学校との間接交流

カリスバーグ小学校とのテレビ会議をしてアメリカと日本との時間のちがいにびっくりしました。(3年生)

カリスバーグしょうがっこうのみんなと、あいたいなあ、あそんでみたいなあとおもいました。いろいろやらずのかぞえかたをいってみたいです。(1年生)

## お問い合わせ先

宮城県気仙沼市立鹿折小学校  
住所：〒988-0817 宮城県気仙沼市西八幡町 54-1  
TEL：0226-22-6876 FAX：0226-22-6878  
MAIL：sisi-s4@k-macs.ne.jp

# 買い物から見えてくる世界

- 社会科・国語・総合的な学習の時間を関連させた事例 -  
(東京都江東区立 東雲小学校 3年)



## 活動概要

小学校3年生の社会科には、「人々の仕事と私たちの暮らし」という単元があります。

商店や商店街（あるいはスーパーマーケットなど）の人々の仕事によって、私たちの暮らしが成り立っていることを学びます。

本校ではこの学習内容に、国語の「分類ということ」「インタビューのしかた」や総合的な学習の時間などを関連づけ、「買い物から見えてくる世界」という単元を構成し、身近な学びから世界にまで視野を広げるような工夫をしております。

東雲小学校では地域のスーパーマーケットに協力をお願いして、4年前から店内での学習活動をさせていただいています。また、3年前からは、NGOのご協力をいただいて、農家の方やソロモン諸島から来日中の方をゲスト・ティーチャーとしてお招きしています。体験的な活動や、人とのふれあいを通して、豊かな学びが進んでいます。



浦野めぐ美 教諭 ・ 大沢裕美 学年主任



見学前に調べたいことを出し合って、カードでまとめます

## 消費者の立場から販売者の立場まで

児童は、自分の家の買い物について調べます。買い物する店の分布・商品のふるさと調べ・家族が買い物をするときに気を付けていることなど、家族への聞き取り調査を元に調べます。それぞれの家族が、どのようなことに気を付けて買い物をしているのか、発表を聞き合い、学習を進めます。

次に、お店の人々のさまざまな工夫や仕事に対する思い、買う人の思いとの結びつきなどについて、見学やインタビューを通して学びます。この学習には、買い物が集中しているスーパーマーケットなどのご理解をいただき、お店の中を学習の場として提供していただきました。

このような体験的な学習場面では、児童は、夢中になって取り組みます。品揃えや、分かりやすい並べ方などの工夫、季節や行事に合わせたディスプレイの工夫、売れ残りをなくし食べ物を捨てないようにする等の環境への配慮等々、さまざまなことに気付きを深めます。

また、このように実際に人とふれ合って、コミュニケーションを取るような場面を通して、これからの多文化共生社会を生きていく人としての資質が鍛えられるように思います。

スーパーマーケットへの見学をする前には、児童が互いの疑問や調べたいことを出し合いました。カードを使って疑問を整理することで、見学の視点が、一層はつきりします。

問題意識をはっきりと持って見学させることが、充実した学びにつながります。



木や紙のむだ遣いで、ソロモン諸島の自然や暮らしが失われる



稲たばを手に、米作りについて語りかける、長野県飯綱町の農家の方

## 生産者との出会いをつくる

店頭に並んでいたさまざまな品種・価格・生産地のお米をきっかけに、あるいは生産者の笑顔の印刷された札などをきっかけに、生産している農家の人々への思いを広げます。

本校では、NGOのご協力をいただき、長野県の農家の方を学校にお招きし、直接のふれあいを通じた学びを進めてきました。

今年も長野県飯綱町の農家の方が、学校に来てくれました。その方から、

- ・生き物を相手にしているの、休みが取りにくいです。
- ・おいしくて安全なものを作るのは手間がかかり大変だが、除草剤などを使わずに頑張っています。

- ・一生懸命に作っているの、残さずに食べてください。

などの声を、直接聞くことで、児童の食生活が大きく変わります。次の日から給食の残滓の量が減り、好き嫌いの多かった子も残さずに食べるようになってきます。



木や紙の無駄遣いで、ソロモン諸島の森や暮らし失われていることを聞く

## 海外の生産者にも目を向ける

材木の輸出によって生活基盤の森を失いつつあるソロモン諸島の方に出会い、お話を聞くこともできました。これも、NPOのご協力で実現したことです。

子ども達は、豊かな自然に囲まれて生きる人々の姿にあこがれを感じたり、その自然が失われつつある現状に心を痛め、何とかできないのかと話し合ったり、「フェアトレードについてもっと知りたい、家族にも伝えたい」などと話していました。

## 教科・領域を越えた学びから ESD の学習が生まれる

教科・領域を越えて、関連する学習内容を結びつけ、児童の学習を進めることは、総合的な学習を進める上で最も重要なことです。

今回もいくつかの教科での学習内容を結びつけ、全体で42時間構成という大きな単元に組み立てました。

3年生にとって、難しい内容もありました。しかし、児童の当事者意識や問題意識を大切にすることで、どの児童も夢中になって取り組みを進めることができました。

このような学習を進めることで、普段取り組んでいる国語や社会や総合の学習が、環境や消費者教育という視点で結びつき、持続可能な暮らし（消費生活）のあり方にまで発展していきました。

これからも、日常の授業を工夫する中から、ESD（持続発展教育）の学びを創りあげていきたいと思っています。

### お問い合わせ先

江東区立東雲小学校  
 住所：〒135-0062 東京都江東区東雲2-4-11  
 TEL：03-3529-1451  
 FAX：03-3528-1768  
 MAIL：shinonome-st@mx.koto.ed.jp

# 水やごみに関する学習をつなげて ESD の学びに発展させる (江東区立東雲小学校 4 年)



## 活動概要

小学校 4 年の一学期には、社会科で「暮らしとごみのしまつ」、「私たちの暮らしと水」という単元があります。また同時期の国語には「伝えたいことをはっきりさせて書こう」という表現方法の学習があります。これらの学習を関連づけて、さらに、総合的な学習の時間で「キッズ ISO1400 プログラム」への動機付けをしたり、家庭と連携して取り組ませたりしていきます。

また、これらの成果などをもとに学習を膨らませ、「東雲フェスティバル」(全校で取り組む ESD 祭り)で発表をしたりする予定です。

各教科・領域の関連は、基本的には下の ESD カレンダーのようになっています。今年は「東雲ごみプロジェクト」として、ごみの始末を中心として自分たちの生活を見直し、どのようにしたらごみを減らせるか話し合ったり、発表しあったり、実践に取り組んだりということに力を入れてみました。

昨年度までは、総合的な学習の時間で、「私たちの水、地球の水」という単元を設定し、JICA の元隊員からニジェルでの水と生活の事情について聞いたり、そこから世界の環境問題に目を向けていきました。児童の学習の状況等を見ながら、どこに重点を置いて取り組みを進めるか、考えるようにしています。



島田慶子教諭・松島 瞳学年主任

## 問題解決型の学習過程を重視する

児童が「これは何とかしなくてはいけない大切な問題だ」「いったいどのようになっているのだろう。」「どんな秘密があるのだろうか」等という強い疑問を持って学習に取り組むことが重要です。私たちの暮らしは、決して絵空ごとではないし、他人任せで何とかなるものでもないからです。

自分の問題として捉えさせるためにも、事実との感動的な出会いや、疑問の集約、人との触れ合い、体験的な活動などが大切になります。



東雲小学校長 手島利夫

平成19年度 ESD(持続発展教育)カレンダー 第4学年 江東区立東雲小学校

教科領域	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	3月
国語	ついでに 【異文化理解】	伝えたいこと をはっきりさせて 書こう 【表現力】	ついでに 【異文化理解】							
算数	大きな数 の仕組 【異文化理解】									
社会	すみよい暮らしを 支える水 【地球理解・環境】	すみよい暮らしを 支える水 【地球理解・環境】	すみよい暮らしを 支える水 【地球理解・環境】	すみよい暮らしを 支える水 【地球理解・環境】	すみよい暮らしを 支える水 【地球理解・環境】	すみよい暮らしを 支える水 【地球理解・環境】	すみよい暮らしを 支える水 【地球理解・環境】	すみよい暮らしを 支える水 【地球理解・環境】	すみよい暮らしを 支える水 【地球理解・環境】	すみよい暮らしを 支える水 【地球理解・環境】
理科	水と 【環境】	水と 【環境】	水と 【環境】	水と 【環境】	水と 【環境】	水と 【環境】	水と 【環境】	水と 【環境】	水と 【環境】	水と 【環境】
総合	わたしたちの 【環境・地球理解】	わたしたちの 【環境・地球理解】	わたしたちの 【環境・地球理解】	わたしたちの 【環境・地球理解】	わたしたちの 【環境・地球理解】	わたしたちの 【環境・地球理解】	わたしたちの 【環境・地球理解】	わたしたちの 【環境・地球理解】	わたしたちの 【環境・地球理解】	わたしたちの 【環境・地球理解】
特別活動		グリーンデー 【環境・地域参加】						グリーンデー 【環境・地域参加】	グリーンデー 【環境・地域参加】	グリーンデー 【環境・地域参加】
道徳	カンボジアから 来た留学生 【国際理解】	いのちの 【人権】						いのちの 【人権】	いのちの 【人権】	いのちの 【人権】
音楽		聖王の音楽 【異文化理解】								
図工	小さな美術館 【異文化理解・国際文化理解】									
体育		東雲音楽 【異文化理解】								音楽と 【生命尊重】

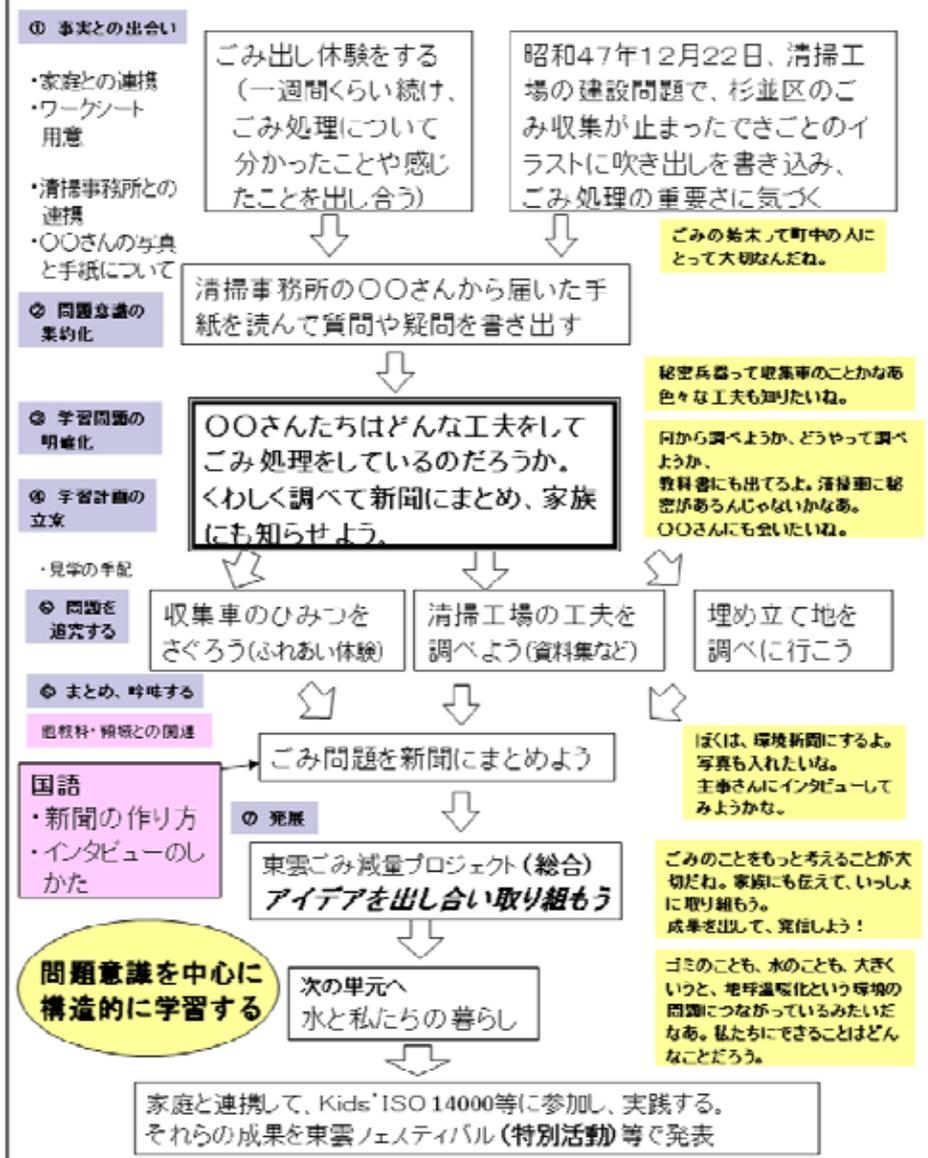


ふれあい体験を通して、ごみ収集のひみつを探る



企業を訪問し、ごみ減量への取り組みについて教えていただく

### 健康で、安全なくらし「暮らしとゴミの始末」学習構造図



### 学習の構造化

東雲小学校では、研究授業をする際、単元の学習を構造化し、それを下の図のようにまとめています。これが問題解決型の学習を進めるために、効果的です。

人との触れ合いや、体験が学習全体の中でどのような位置づけなのか、明確にすることができ、一つ一つの活動の意味がはっきりしてきます。

### ユネスコ・スクール・シンポジウムに参加

この学習の発展として2008年7月に行われたユネスコ・スクール・シンポジウムの公開授業に参加協力し、日本通運本社を訪問しました。

引っ越しの際に出でいたたくさんのごみをなくすための取り組みを教えていただき、企業も環境問題に真剣に向き合っていることを学びました。

お問い合わせ先

住所：〒135-0062 東京都江東区東雲2-4-11  
 TEL：03-3529-1451  
 FAX：03-3528-1768  
 MAIL：shinonome-st@mx.koto.ed.jp

# 菜の花エコ・プロジェクト (大阪府立西淀川高校)

## 活動概要

生徒たちの地球環境に関する意識を高めるため、学校で菜の花の栽培や廃油回収を行い、バイオディーゼル燃料(BDF)を作っています。この事業を進めることで、学校と地域のさまざまな人々がつながる多くの機会を生み出しています。



辻 幸二郎(西淀川高校教諭)

## 実施背景や地域の課題

本校の位置する大阪市西淀川区は阪神工業地帯の中心の1つで大小様々な工場群の集積地帯です。また、主要国道2本、阪神高速も3本通るなどかつてより公害問題の深刻な地域でした。こうした公害の歴史を記憶にとどめ、またよりよい「まちづくり」をするために地域のつながりや地域の意識を高めしていくことが求められています。

## 目的・目標

- (1) 菜の花の栽培を通して、地域の方々と学校を結びつけ環境意識を高めます。
- (2) 生徒たちに公害の歴史や現代世界の現状を学ばせ、よりよい社会へのイメージを考えさせます。
- (3) 生徒たちと地域のさまざまな人々との交流を通じて、お互いの学びあいを進めます。

## 実施主体や実施体制

大阪府立西淀川高校の教員による「環境学習プロジェクトチーム」を中心に、「環境」授業担当者、生徒の自主活動である「エコ・コミュニケーションクラブ」(以降ECCと表記)により実務を担当する。

## 資金

菜の花エコ・プロジェクトの初期の費用(BDF精製機の購入や肥料の購入など)については大阪府教育委員会の「集中支援事業」の後押しにより行われました。その後の運営資金については、通常の学校の予算によりまかなわれています。

## 活動内容

### (1) 菜の花の栽培

2007年8月より、本校の「環境学習プロジェクトチーム」のメンバーを中心に、大阪経済大学の教員・学生、あおぞら財団の職員、大阪市立中学校の生徒などにより、畑の耕作作業、畝づくり、種まきなどを行っています。満開時には地域の住民の方をお呼びして「お花見会」を開催した。「環境」の授業や本校ECCのメンバーにより収穫作業を行います。



大阪市環境学習センター

### (2) BDFの精製

廃油が一定量集まった時に、本校ECCのメンバーでBDFづくりの実習作業を行っています。



教職員・生徒・ボランティアによる農作業

### (3) 交流・アピール活動

- ・ 本校ECCメンバーと大阪経済大学の教員・学生と共同作業などを行っています。
- ・ 2008年8月「全国菜の花学会」で西淀川高校の取り組みを報告しました。
- ・ 2008年8月大阪市立董中学校、大阪市立淀中学校、大阪市立

梅南中学校の生徒と本校 ECC のメンバーとで「菜の花エコ・プロジェクト」など環境問題についての学習会を3回にわたり開催しました。

- ・ 2008年8月、大阪市環境学習センターで、本校 ECC のメンバーによる子供向け環境講座を開催しました。
- ・ 2008年9月、大阪市「西淀川区民まつり」で本校 ECC のメンバーによる「菜の花エコ・プロジェクト」の紹介・アピールを行いました。
- ・ 2008年10月、大阪市西淀川図書館で、本校 ECC のメンバーによる子供向け環境講座を開催しました。

#### (4)「環境」の授業

- ・ 3年生に必修科目として「環境」を設置し、地域の環境問題から地球環境問題・貧困・食料・水など幅広いテーマで実際の自分の生活に結びつけた視点から学習します。最終的に、自分の生き方やどんな社会にしたいのかを考えさせる内容になっています。



【西淀川区民まつりにて】

## かかわった人々や社会の変化

以下の人たちとのかわりの中で、活動を進めました。

- (1) 大阪経済大学 「エコ・まちネットワーク」学生実行委員会
- (2) NPO「あおぞら財団」
- (3) 大阪市環境学習センター「生き生き地球館」
- (4) 大阪市立葦中学校、大阪市立淀中学校、大阪市立梅南中学校
- (5) 地域のボランティアの方
- (6) 大阪府立松原高校
- (7) 滋賀県愛東町

活動を行うことで少しずつ輪が広がり、さまざまな人たちと本校生徒たちのつながりが生まれました。お互いに学びあう場面も多く、生徒のみならずお互いが力づけられました。さらには地域の人たちに生徒の活動が徐々に伝わり、環境問題に対する地域の解決課題として「菜の花エコ・プロジェクト」が広まりつつあります。廃油回収のネットワークづくりについても理解が広まっている。



【西淀川図書館（大阪市）にて】

### お問い合わせ先

大阪府立西淀川高等学校  
住所：大阪市西淀川区出来島 3-3-6  
TEL：(06) 6471-7211  
FAX：(06) 6475-4939  
MAIL：k\_tuji@nishiyodogawa.osaka-c.ed.jp

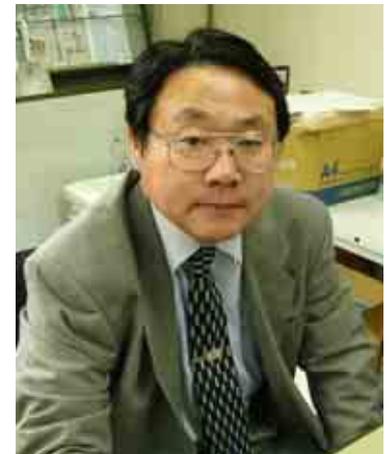
# ユネスコクラブの生徒を中心に取り組む ESD (広島大学附属中・高等学校)



## 活動概要

広島大学附属高等学校は、1975(昭和50)年にユネスコクラブが組織され、広島ユネスコ協会や日本ユネスコ協会連盟と提携・協力してユネスコ活動に取り組んできました。これまでに、全国高校ユネスコ研究大会の主管担当校を3度つとめ、レポート発表等を積極的に行っています。最近では、ユネスコ活動の輪を広げるため、校内にユネスコ委員会を組織し、生徒会活動とリンクさせて活動を行っています。

また、ス・パ・サイエンス・ハイスクール事業と連携して、各教科や「総合的な学習の時間」を使ってESDの授業づくりに取り組み、毎年11月に開催される研究大会で、ESDのシンポジウム・ワークショップ・研究授業などを公開しています。



藤原隆範 ユネスコクラブ顧問

## 背景

本校は、1953(昭和28)年に、ユネスコ協同学校(ASPnet、現ユネスコスクール)に指定され、以来半世紀以上にわたり、ユネスコ教育に取り組んできました。1950~60年代は、ユネスコ協同学校計画に基づく「教育実験」に取り組み、その成果をユネスコ本部に報告しています。1970年代以降は、特別活動にユネスコ教育の重点を移し、大学の独立法人化後、本校は「特色ある教育課程」に基づいた模範的・先進的教育実践として、「ユネスコ協同学校」実践に取り組むことを、「中期目標・中期計画」に明記しています。また、2005年に「持続可能な開発のための教育(ESD)の10年」が始まったことを受け、ユネスコクラブの活動と、スーパー・サイエンス・ハイスクール事業を中心に、「持続可能な開発のための教育(ESD)」に取り組んでいます。

## 目標

ユネスコクラブの活動目標は、以下のようである。すなわち、ユネスコ憲章の精神を理解し、国際理解・国際協力および交流に関わる自主的な研究・調査並びに実践活動を通して、平和の心を培い、自己開発に努めること。

2007(平成19)年にス・パ・サイエンス・ハイスクール事業の指定を受けたが、その目標を、「『持続可能な開発』に創造的に取り組む科学者・技術者を育成する教育課程の研究」とした。以来、「ユネスコ協同学校」事業とス・パ・サイエンス・ハイスクール事業をリンクさせて、ESDの実践に取り組んでいる。

ESDを日々の教育活動で実践するため、次の目標を設定した。

- (1) 人権意識を涵養し、国際協調の精神をはぐくむことを通じて、環境問題や南北問題・国際平和の問題など、地球規模的な諸問題の解決に積極的に尽力する人間を育成する。
- (2) 自然と人間との「共生」をはかり、世代内の「不公平」・世代間の「不公平」をなくすため、「新しい平和の文化」の創造の担い手をつくる。



広島ユネスコ協会と連携した街頭募金活動



文化祭での Bangladesh Charity Bazaar

## 活動内容

最近のユネスコクラブ活動として、次のような活動を行っている。

- (1) 校内で不要になった運動靴を集めて、NPO を通じてアフリカに送付。
- (2) NPO より商品を借り受け、バングラデシュの工芸品等のチャリティバザーを行うとともに、バングラデシュの現状を発表。
- (3) 文化祭でのフェアトレード商品の販売と、フェアトレードのしくみについての発表。
- (4) 発展途上国の教育や医療に役立てるため、使用済み切手や使用済みカード、書き損じはがきを集め、NPO を通じて換金し、寄付。
- (5) 四川大地震・ミャンマーのサイクロン被災者救援のための募金活動。
- (6) 8月15日終戦の日、広島ユネスコ協会主催の行事「平和の鐘を鳴らそう」に参加し、メッセージを朗読。
- (7) ユネスコアジア文化センターの主催事業に参加し、インドネシアの高校生と交流。
- (8) 日本ユネスコ協会連盟の主催行事「ユネスコ コースセミナー」に参加し、ESD について学習。
- (9) 広島大学附属中・高等学校で1年間に排出される二酸化炭素の量を計算し、京都議定書を守るためにどのようなことができるかを提案。



「平和の鐘を鳴らそう」でのスピーチ

また、本校主催の研究大会で、次のような ESD の研究授業を公開しました。

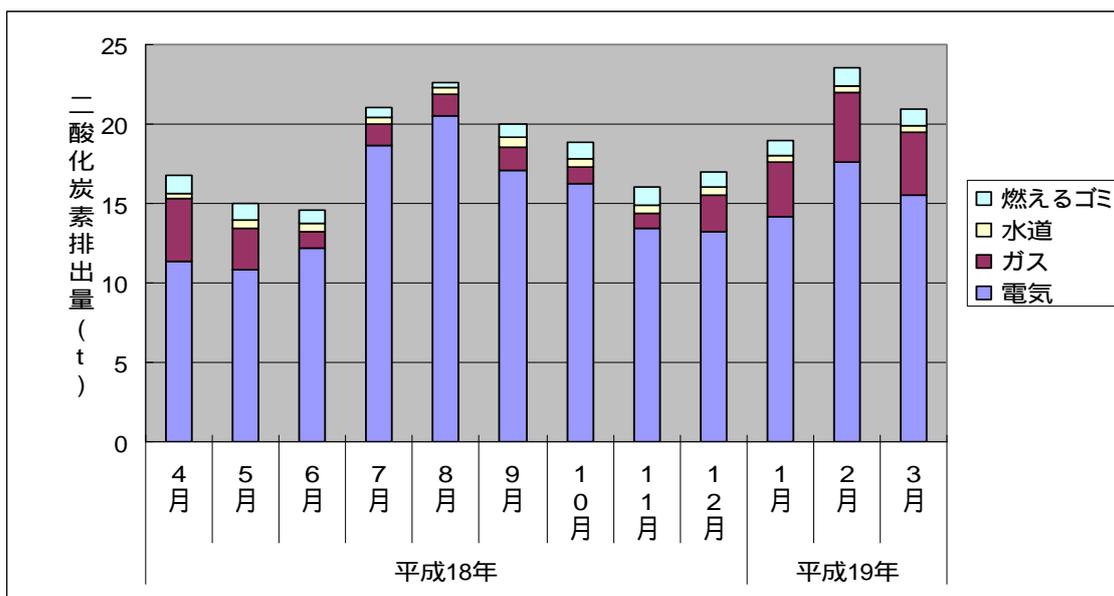
- (1) 中学校「社会科・家庭科」のコラボレーション 題目「持続可能なライフスタイルを考える」
- (2) 高等学校「化学・政経」のコラボレーション 題目「『持続可能な開発』を発想する化学の授業」



ユネスコ・コースセミナーに参加して

## 成果と課題

ユネスコクラブの生徒の活動を軸に、ESD の実践に取り組んできた。生徒のなかに、京都議定書を守るために私たちができることは何かを提案し、実行しようという活動が見られるなど、成果はあがっている。ユネスコクラブの生徒の活動を、他の教育活動とつなげて、さらに ESD の教育活動の輪を広げていくことが課題である。



ユネスコクラブの生徒が計算した 広島大学附属中・高等学校の二酸化炭素の排出量

### お問い合わせ先

#### 広島大学附属中・高等学校

住所：〒734-0005 広島市南区翠 1-1-1

TEL：082-251-0192（代表） 082-251-9867（研究部）

FAX：082-252-0725（代表） 082-251-0208（研究部）

MAIL：asakaze@hiroshima-u.ac.jp